



### 1 法眼寺

延宝8年(1680)に南宗元頌によって開山された黄檗禅宗の寺院です。最初、湯湯村に建てられましたが、元禄4年(1691)に黒石第3代領主津軽政の命により、現在の山形町に移されました。以降、黒石津軽家の祈願所として寺領が与えられました。本堂には、津軽三十三ヶ所観音霊場の三十三観音の一つである十一面観世音が安置されています。



#### 【県重宝・本堂】

黒石藩の祈願寺院。本堂には、津軽第二十六番札所の十一面観世音が、三十三観音とともに安置されています。

#### 【県重宝・鐘楼堂】

約250年前に建立された唐風造りで、梵鐘には版画家棟方志功が描いた三尊仏が刻まれています。



#### 【市指定・砂踏之碑】

本堂東側に開山堂があり、その側に高さ1.2mの石碑が建てられ、これを「砂踏之碑」といいます。西国霊場三十三か所巡礼の碑としては、県内唯一のものである。

#### 【市指定・開山堂】

開山した南宗元頌和尚を祀った開山堂は、境内で最古の小さな建造物。正面に両開棧唐戸(さんからど)を吊るし、ほかの三法は壁面で、内部に卵塔一基が安置されています。

#### 【市指定・山門】

寛保元年(1741)に建立され、本堂よりも古く、一間一戸の四脚門(しきやくもん)で、前後軸唐破風付(じくからはふうつき)茅葺の構造です。小規模で簡素なもの、姿の美しい山門です。

#### 【市指定・駕籠】

寺伝によれば、この駕籠は、黒石津軽家への伺候や、黒石町内の寺院合同仏教行事への参向など、公用に限って使用されてきました。寄進者の加藤権七は、法眼寺の開基に尽力した加藤武助・勘兵衛(初代)の一族と思われます。この駕籠は、明治以降ほとんど使用されることがなく保存され、江戸時代中期の格式を備えた由緒ある駕籠であることから、市の文化財に指定されました。



### 2 長谷澤神社

創立は不明だが、藩政時代には不動館(中野神社、国上寺)の不動尊とともに三不動(がけ)が行われ、1日のうちに参詣すれば願い叶うと信じられていた。

#### 【上十川の追分石】

正徳4年(1714)の建立で、津軽では最古の追分石である。法峠が日蓮宗の聖地とされていたため、津軽地方の42基中、黒石市には24基が建立。

### 3 りんご史料館



りんご史料館は、昭和43年(1968)に試験場の旧庁舎を利用して開館。イーストモーターリング研究所(イギリス)を模して昭和6年に建てられ、歴史的にも価値のある建造物として知られています。試験研究の成果

や、青森りんごの歴史などを見学することができます。

### 4 浅瀬石城跡

慶長2年(1597)2月、津軽為信は浅瀬石城を攻撃しました。これにより、城主千徳政保は、近侍15人と共に自刃し、浅瀬石城は落城したと伝えられています。

### 5 旧黒石城跡

鎌倉時代に南部氏の配下工藤貞行の居城であった。一角に石碑が立っている。

### 6 じよんから節発祥の地



黒石の土地から生まれた民謡に、「黒石よされ」と「じよんから節」の二つがあります。石名坂から浅瀬石へ続く道路に架けられた橋が上川原橋。この付近は、「じよんから節発祥の地」として知られています。

### 7 花巻遺跡

この遺跡が菅江真澄の『追柯呂能通度(つがるのつと)』に出てきます。昭和3年(1928)に黒石を訪れた中谷治宇二郎は花巻遺跡の発掘調査を行いました。そして、この遺跡について発表した論文で円筒上層式土器を『花巻式土器』と命名しました。ただ、宇二郎が35歳の若さでこの世を去ると、『花巻式土器』という形式名も消滅してしまいました。昭和60年と62年に黒石市教育委員会で発掘調査を行い、その結果、竪穴住居跡1棟、土坑跡20基、石棺墓10基などが発見されています。



### 8 甲里見遺跡(2)



昭和63年の発掘調査で、平安時代前期の竪穴住居跡3棟が発見されました。このうち1棟が焼失家屋で、カマドの中から土馬(どば)、手捏ね土器(てづくねどき)、勾玉(まがたま)が出土しています。

す。これらの遺物は律令祭祀遺物(りつりょうさいしいぶつ)と呼ばれるものです。

そして、この中で特に重要なものは土馬で、県内で土馬が出土しているのはこと八戸市岩ノ沢平遺跡の2遺跡だけですが、これにより本県にも律令制が及んでいたことが解ります。

### 9 馬場尻八幡宮